

大竹駅周辺整備新構想【概要版】

1 はじめに

(1) 構想策定の背景と目的

本構想は、過年度の計画※¹、陳情※²、大竹市事業評価監視委員会での付帯意見※³等を踏まえるとともに、社会環境の変化、上位関連計画等との整合を図り、大竹駅周辺のまちづくりや整備の在り方を「新構想」として見直すことを目的としています。

※1：「大竹駅前地区市街地基本計画（昭和63年）」、「大竹駅周辺地区総合再生計画基本計画（平成8年）」

※2：「橋上駅の実現、東口広場の整備、地区の活性化等についての陳情（平成17年）」

「大竹駅及び駅周辺のバリアフリー化、橋上駅の実現等についての陳情（平成20年）」

※3：「事業を進めるにあたっては、事業効果をより一層高めるため、橋上駅など更なる住民の利便性の向上について十分検討するとともに、より一層のコスト縮減に取組まれない。また、本事業が大竹駅周辺地域における土地の利活用の促進など地域の活性化につながるよう最善の努力をされたい。」

(2) 構想の位置づけ

本構想は、「第五次大竹市総合計画」や「大竹市都市計画マスタープラン」などの上位計画に基づく事業・プロジェクトであり、その他、「大竹市地域公共交通総合連携計画」「大竹市障害者基本計画」などの関連計画との整合を図りながら、今後の大竹駅周辺整備のビジョンとして策定するものです。今後は、本構想に基づき、実施計画等の具体化を進めていきます。

(3) 対象区域

本市や大竹地域全体とのまちづくりとの連携・整合を図りつつも、大竹駅周辺を主体としています。

2 構想策定にあたっての基本事項

(1) 上位関連計画の概要

- ① 第5次大竹市総合計画
- ② 大竹市都市計画マスタープラン
- ③ 大竹市地域公共交通総合連携計画
- ④ 大竹市障害者基本計画

(2) 地域の概況（現況・特性・問題点等）

- ・人口減少・高齢化が進展している
- ・まちが東西に分断されている（東西の行き来が不便）
- ・駅周辺のバリアフリーが進んでいない
- ・駅周辺・商店街の活力が衰退してきている
- ・駅周辺に低未利用地が比較的多い
- ・駅周辺に人々が憩えるような場所が不十分

(3) 社会動向とまちづくりの潮流

【社会動向】

- 人口減少・少子高齢化の進展
- 地球温暖化の進展
- ライフスタイル多様化
- 地方分権・都市間競争の激化
- 中心市街地の衰退
- モータリゼーションの進展
- 産業構造の変化
- 自然災害の多発・激化
- 景気低迷・地域活力の衰退
- 財政の悪化
- 成熟社会の進展
- グローバル社会の進展
- 都会への人口一極集中の進展

【まちづくりの潮流】

- 集約型都市構造への転換
- 環境負荷の小さい低炭素型都市の実現
- エココンパクトシティ化
- 都心居住
- 駅周辺の中心拠点の活性化・顔づくり
- 公共交通の重要性の高まり、モーダルシフト
- 災害に対する安全性の向上
- 住民自治・地域コミュニティ強化
- 官民連携、エリアマネジメント
- 観光活性化、交流人口拡大
- ユニバーサルデザインの思想の徹底
- 歴史・文化等を活かした魅力的な景観づくり
- 人口流出防止、定住都市づくり

3 大竹駅周辺整備の主要課題

(1) アンケート結果の要約

【将来の大竹駅周辺のまちのイメージ】

- 1位：高齢者や体の不自由な人など、あらゆる人が利用しやすい「やさしい場所」
- 2位：多くの人が行きかう「活気のある場所」
- 3位：都市の機能が集約された「便利な場所」

【将来の大竹駅周辺にあつたら良いと思う施設】

- 1位：ショッピングセンター
- 2位：コンビニエンスストア
- 3位：飲食店

【現在の大竹駅周辺（西側）の利用のしやすさ（全体的な満足度）】

- 全体：「不満+やや不満：33%」
駅西側地域居住者：「不満+やや不満：26%」
駅東側地域居住者：「不満+やや不満：49%」
※駅の利用に迂回を強いられる駅東側地域居住者では、約半数の人が不満を持っている。

【現在の大竹駅周辺（西側）の利用のしやすさ（不満度が高いこと）】

- 「そう思う+ややそう思う」が50%以上を占めていたもの
- 駅東側からのアクセスが不便（70.6%）
- 駅構内はエレベーターがなく利用しづらい（54.7%）
- 駅構内は休憩・待ち合わせスペースが少ない（59.8%）
- 駅前広場に停車スペースが少なく送迎に不便（60.7%）
- 駅前で休憩や待ち合わせできるスペースが不十分（60.3%）

【東口広場の整備に関して、特に希望すること】

- 1位：公衆トイレの整備
- 2位：送迎用の停車スペースの整備
- 3位：安全な歩行空間の整備

【橋上駅舎化により「期待される効果」】

※「そう思う+ややそう思う」が多い順

- 1位：駅東側からの利用がしやすくなる（87.1%）
- 2位：駅舎施設のバリアフリー化が進み利用しやすくなる（81.1%）
- 3位：駅舎が新しくなり、大竹市のイメージ向上につながる（65.4%）
- 4位：駅東側と駅西側での一体的な発展が期待できる（54.5%）
- 5位：駅東側地域のにぎわいが期待できる（51.7%）
- 6位：駅西側地域のにぎわいが期待できる（35.7%）

(2) 大竹駅周辺整備の主要課題

① バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進、地域の回遊性の向上

② 「交通拠点（交通結節点）」としての整備

③ 「賑わい・シンボル拠点」「生活拠点」としての再生

④ 「交流拠点（憩い空間）」としての整備

⑤ 定住促進、低未利用地の土地利用増進への貢献

⑥ 着実かつ効率的で効果的な整備の実施

4 大竹駅周辺整備の基本的な考え方

【大竹駅周辺整備の基本コンセプト】

すべての人が利用しやすく、住みやすいまちへ
～「交通・賑わい・シンボル・生活・交流」拠点づくり～

【大竹駅周辺整備の目標・基本方針】

- ① 東西に分断されたまちの一体化・回遊性の向上
- ② 駅及び周辺空間のバリアフリー・ユニバーサルデザイン化
- ③ 駅及び周辺空間の賑わいづくり、魅力的で便利な生活拠点づくり
- ④ 交通拠点・交通結節点としての機能の改善・向上
- ⑤ 交流・憩い空間の創出と魅力的な景観の形成

5 施策・事業の方向性

(1) 自由通路の整備、
周辺道路網の改善

(2) 橋上駅舎の整備

(3) 駅周辺機能の再編
（既存駅舎空間の有効活用）

(4) 西口広場の改良、
東口広場の整備

大竹駅周辺整備構想図

大竹小学校, 大竹中学校, 大竹高校
大竹会館(アゼリアホール)へ



総合体育館
総合市民会館
市立図書館

■西口広場の改良
 ・自家用車の乗降場等の確保・明確化
 ・幹線交通・支線交通等の乗降場等の確保・明確化
 ・周辺地域とあわせた交通規制・交通処理方法の見直し検討
 ・交流広場の設置
 ・魅力的な景観づくり など

□周辺道路網の改善
 ・西口広場南側進入路(県道大竹停車場線)の歩行環境の改善

■既存駅舎空間の有効活用
 ・コンビニ, 飲食店等の導入検討
 ・待合い・談話室・学習室(交流サロン)の導入検討
 ・情報提供施設の導入検討 など

□周辺道路網の改善
 ・青木踏切(南栄白石線)の歩道整備

□周辺道路網の改善
 ・市道新町1号線の西口広場とあわせた交通規制・交通処理方法の見直し検討

□周辺道路網の改善
 ・南側地下道の美装化・防犯設備の設置検討

■自由通路の整備

■橋上駅舎の整備
■跨線橋のバリアフリー化

□周辺道路網の改善
 ・北側地下道の美装化・防犯設備の設置検討

■東口広場の整備
 ・バス・タクシー・自家用車の乗降場等の整備
 ・支線交通の乗降場等の検討・実施
 ・駐車場・駐輪場の整備
 ・魅力的な景観づくり など

【基本コンセプト】 すべての人が利用しやすく, 住みやすいまちへ
 ~「交通・賑わい・シンボル・生活・交流」拠点づくり~

- 【目標・基本方針】**
- ① 東西に分断されたまちの一体化・回遊性の向上
 - ② 駅及び周辺空間のバリアフリー・ユニバーサルデザイン化
 - ③ 駅及び周辺空間の賑わいづくり, 魅力的で便利な生活拠点づくり
 - ④ 交通拠点・交通結節点としての機能の改善・向上
 - ⑤ 交流・憩い空間の創出と魅力的な景観の形成

□周辺道路網の改善
 ・市道北栄南栄1号線の水路の蓋がけ・歩道空間の確保

□周辺道路網の改善
 ・翠橋東詰(東栄木野線(国道186号))の車道拡幅

□周辺道路網の改善
 ・国道2号交差点の改良及び市道西栄1号線の歩道整備

サントピア大竹
(総合福祉センター)

さかえ公園へ

主要な歩行経路

S=1/3,000